

第2回佐賀市健康づくり計画策定委員会の会議結果

令和6年9月4日に開催しました会議の概要は下記のとおりです。

記

◆ 開催日時

令和6年9月4日（火）19時00分 ～ 20時00分

◆ 開催場所

佐賀市役所本庁舎4階 大会議室

◆ 出席者

◎出席委員（敬称略、五十音順）

井原竹始、木村康代、酒井皓司、坂本龍彦、鶴田雅子、野本幹子、原田洋子、
福山隆志、松尾宗明、吉原正博

◎事務局

森保健福祉部長、馬郡健康づくり課長、諸永保健予防一係長、梶原健康推進係長、
萩原母子保健係長、野田健康企画係長、副島保健予防二係長、斉藤予防接種係長、
末次主幹、田中主幹、塚原主査、荒巻主査、庄野主査、百崎主事

◆ 傍聴者

1名

◆ 議事要旨

（1）開会

（2）議事

第3次佐賀市健康づくり計画素案について【資料1】

《事務局説明》

《質疑応答》

○委員

佐賀市は、特定健診受診率が低いのが課題。

企業健診では、毎年同じ人が要治療や予備群となることが多い。企業側の健康増進に対する取組が進むような働きかけを行っていく必要があるのではないか。

○事務局

健康経営の考え方から、企業側の健康増進の意識が高まるような取組を検討していきたい。

○委員

従業員の健康管理や従業員の家族の健康増進にも取り組んで表彰を受けた企業の話聞いた。そのような企業が増えると良いと思う。

○事務局

第3次計画で取り組んでいくスマートライフプロジェクトの紹介を通じて、市内の企業への働き掛けを行っていきたい。

○委員

企業に対しては、税制上のインセンティブ（対価）など具体的な数字を示さないと取組が進んでいかないのではないかと。

○事務局

現状で、インセンティブに関する制度の有無は承知していないが、国で制度創設の動きなどがあれば、市としても取組を検討したい。

○委員

P61 の 20～30 歳代女性のやせの割合の目標値が「現状維持」、低出生体重児の割合の目標値が「減少傾向へ」となっているが、この2つは連動していると思うので、目標値が違うのは無理があるのではないかと。

P21 の市民のめざす姿に「妊娠中や授乳中は喫煙していない」とあるが、「妊娠中や授乳中も喫煙していない」とした方が良くないか。また、「妊娠中や授乳中は喫煙していない」と「妊娠中や子育て中は母子ともに受動喫煙を避けている」を分けて記載している理由は何かと。

○事務局

20～30 歳代の女性のやせの目標は、国の目標値 15%をすでに達成しているので「現状維持」と設定したが、低出生体重児との整合性を考えると「減少傾向へ」としても問題ないかと思う。

P21 の市民のめざす姿の女性の取組で、「妊娠中や授乳中も喫煙していない」と変更するかどうかについては検討したい。また、「妊娠中や子育て中は母子ともに受動喫煙を避けている」は、「母子ともに受動喫煙を避ける」という点をより意識してもらうために分けて記載している。

○委員

20～30 歳代の女性のやせの目標については、委員会として「減少傾向へ」に変更してもらいたい。

○委員

市の胃がん、肺がん、大腸がんの検診受診率は低く、目標値である 60%を達成するには、かなり上げないといけない現状だが、P34、35 に記載している対策のうち、がん検診受診率向上のための第 3 次計画の新たな取組は何か。

○事務局

がん検診受診率向上に向けた取組については、P34 の取組方針である「がん検診の受診について、ナッジ等を活用した無関心層へのアプローチを含め、効果的な広報や受診勧奨の方法等を検討し、受診率の向上に努める」という点に尽きると考えている。国が研究している個別の受診勧奨や再勧奨を送付する対象やタイミングなどの情報を取り入れ、市民が定期的ながん検診を受ける状況になるような働きかけを検討していきたい。

○委員

国のがん検診受診率 60%という目標は、人間ドッグ等を含めた数値である。佐賀市の場合は、市で実施するがん検診しか把握できないので低めの受診率となり、国の目標値が高く感じられる。

○委員

低身長児に対して、健診の時にアドバイスなどはされているのか。

○事務局

節目の健診では必ず身長計測を行っており、指摘をされた場合は、市から専門医による精密検査の受診を促している。

○委員

P29 にフッ化物洗口についての取組方針の記載があるが、現状、保育園は、各園によって取組方針がバラバラで何も決まりがない。金額はそれほどかからないが、どうすればいいのかなどの情報があまりない。必要な情報をまとめて周知するなど、市としての取組について考えを聞きたい。

○事務局

フッ化物の塗布・洗口については、市から保育園や幼稚園への働きかけを行っているが、コロナ渦で実施園が減少した。毎年、市から園にアンケートで実施希望を聞いており、希望があれば説明を行ったり、歯科衛生士の派遣をして、コロナ前の実施件数に戻るよう働きかけを行っている。

○委員

関心のない園も多いので、関係団体に説明するなど、市で積極的に進めてもらいたい。

○事務局

出向く方向で検討したい。

○委員

18 歳から 30 歳代の歯周病検診が、ほとんどない状況がある。P30 で「40 歳

以上における歯周病を有する人の割合」の目標を減少させるには、20 歳代、30 歳代で予防していかないと下がらないと思う。むし歯と歯周病は深い関係があり、むし歯がない方が歯周病にはなりにくい。そのために中学校までのフッ化物洗口は必須で、むし歯にならない状況をつくるのが、歯周病予防のポイントだと思う。若い世代の歯の健康に対する意識は低いので、20 歳代からの歯周病予防の必要性についての情報をいかに届けていくかが重要。20 歳代、30 歳代に対しては任意の歯周病検診しか検診がないのも問題のひとつ。市が予算を組んで任意ではない検診を実施すると、かなり違ってくると思う。目標としてはこれでいいが、施策としては歯の健康をいかに啓発するかが大事である。

○委員

特定健診の中に歯科検診を入れてはどうか。

○委員

歯周病検診は一緒にしているが、特定健診を受ける人は 40 歳代以上。20 歳代、30 歳代は関係ないという意識の人が多く、将来を支えていく世代の健康をいかに良くしていくかというところに目を向けてもらいたい。

○事務局

歯科に関する施策については、別途、歯科医師会や教育委員会との会議の場を設ける予定であるので、その場で具体的なアプローチについて検討していきたい。

○委員

がんの分野の対策として、HPV ワクチンの接種勧奨は書いてあるが、接種率の目標値は設定されていない。子宮頸がんの予防に HPV ワクチンが有効であることは明らかなので、接種率の目標を入れることはできないか。

○事務局

小学 6 年生から高校 1 年生までの間に接種をするということになっているが、現状として、その集計方法に課題があり、正確な接種率が算出できていないため、目標設定については検討させていただきたい。

○委員

がんの予防に関することなので、接種率はきちんと出す必要がある。

○委員

P50 に「デジタルを活用した健康づくり環境の整備」と記載があるが、把握可能な健康データを活用して、率の上昇につなげるといったデータの活用方法を検討してもらいたい

○事務局

HPV ワクチンの接種率の目標値が設定できるよう検討したい。

○委員

P21 の市民のめざす姿の「受動喫煙を避けている」という表現は喫煙者が動いてくれないと解決しないように感じるので、「受動喫煙から守られている」といった積極的な表現を用いてほしい。

○事務局

表現について検討したい。

(3) 閉会